

# プログラム例(150分)

A1	導入	W1	W1	T1	M1	T2	M2	T3	M3	振り返り	A2
10 min	20 min	10 min	10 min	20 min	20 min	20 min	20 min	20 min	30 min	10 min	
多様性に関する事前アセスメント	研修概要／諸注意／なぜブラインドサッカーなのか？／デモ	コミュニケーションのウォーミングアップ1：声を出すことの大切さ	コミュニケーションのウォーミングアップ2：ブラサカ流コミュニケーションの定義	基本ワーク「M」を繰り返していきます。TはMのあいだで実施するミニワークです。チームビルディングに必要な要素を参加者のチームの様子に合わせて織り込んでいきます。Tで気付き、Mで試行錯誤することで、チームがトランスフォームし、成果があります。同時に、チームメイト同士の関係性も温度のあるものに変化します。また、ワーク中に気づきを可視化するツールを準備し、終了後の振り返りにつなげます。	ワークでの気付き、学び、「チームとはなにか？」について振り返り	多様性に関する事後アセスメント					

ワークを通じ、コミュニケーション、信頼関係などに気づきを得ます。その結果、養われるマインドセットは「多様性に適応する力」です。本ワークショップ前後で、この力がどの程度変化したのか、また社会一般の平均と比較して参加グループがどのような特徴があるのか、慶応義塾大学SDM研究所が開発したアセスメントツールを利用して客観的に数値化します。



コミュニケーションにも準備運動が必要です。小難しい理屈ではなく、ブラインドサッカー流のコミュニケーション論を体感を通じて考えます。

コミュニケーションを前提に、チームビルディングをはかります。はじめは「ギクシャク」していても、チームビルディングに必要な要素を感じ、人と人との関係性が変化していきます。



ワークを通じて、気付きの可視化をします。一人ひとり感じたこと、気付きの種となったことは異なります。それらを振り返りに生かせるよう、言語化・可視化します。



ワークショップ全体を振り返り、どのようなことに気づいたのか、要点(ワークショップの狙い)に対して、どのような気づき、学びがあったのかを振り返ります。適宜、可視化しているのので、変化を思い出しながら実施できます。

## ●要件定義(事前のお打ち合わせ段階で)

お選びいただくコースによって、ワークを実施する前に「要件定義」をしっかりとさせていただきます。要件定義とは、ワークをどのような意図、思いで企画し、参加者に何を伝えたいのか等、研修ご担当者さまの狙いを私たちもしっかりと共有、理解するために必要です。これにより、最終的にそこに落とし込めるようなワーク構成と当日の運営が可能になります。